

報 会 窓 同 京 東 高 館

第 26 号

平成 24 年 2 月発行

発行人 大隈 清道

〒273-0027 千葉県船橋市海神西 1-1193-1-1006



元気で～す～会員便り

安西 弘行



昭和 26 年 3 月卒 (館林市 旧邑楽郡大島村山王出身) 茨城県阿見町在住
元通商産業省工業技術院電子技術総合研究所主任研究官、姫路工業大学 (現
兵庫県立大学) 理学教授、附属高等学校校長兼任。有機固体物理の研究、有
機電荷移動錯体の結晶育成、スペースシャトルでの無重力場で有機金属・有
機超伝導体の結晶育成、有機強磁性体の研究に取り組んできた。
趣 味 動植物写真撮影、映画鑑賞、美術鑑賞、料理、釣り等。
定年退職後、自らの仕事をまとめた専門書「有機電子物性」(培風館)、「有
機電荷移動錯体の結晶育成」(化学同人) を出版、現在は自伝の準備や干柿
を作ったり、料理をしたり。また研究の後輩、卒業生の研究の相談なども。

井戸 嘉雄



昭和 29 年 3 月卒 (館林市 旧館林町足利町出身) 千葉県流山市在住
仕 事 元株 I H I 勤務、設計、工場、現地と廻りました。
趣 味 謡曲、菜園、テニス
地元老人会の幹事のほか 2、3 のボランティア団体等に関わりながら何とか元
気にしております。年一回程度の海外旅行と、年を取ってから再開した下手
なスキーが楽しみで、今年は久しぶりに海外で滑ってみたいなどと考えてい
ます。

山岸 正



昭和 36 年 3 月卒 (邑楽郡板倉町 旧伊奈良村出身) 茨城県古河市在住
仕事&ボランティア: 3年ほど前から日本政府とネパール政府の協定に基づ
く「外国人技能実習制度」に関わり、ネパール技能実習生を日本に送り込ん
でいます。その関係から「(社)日本-ネパール親善協会」の立上げを要請
され、会長に就いた。更に仲間と Web シンクタンクを立上げて「世界一億
国家」の研究等、何故かこの処、グローバルづいています。

渡辺 智三



昭和 40 年 3 月卒 (館林市 旧館林町谷越町出身) 千葉県船橋市在住
仕 事 元(株)宮地鐵工所 (大は明石海峡大橋から、小は街中の横断歩道橋
等の鉄橋の設計・工場製作・原場施工) で、設計・現場施工計画・
現場監督等を行い鶴見つばさ橋の現場施工職員としても従事した。
趣 味 サッカーのプレー・観戦、ボーリング。
サッカーは(株)宮地鐵工所と電源開発(株)との年 1 回の定期戦 (現役戦、OB
戦) が 56 回続いており、都合のつく限り現在も参加している。ボーリング
は週一ペースで楽しんでいます。

松丸 政喜



昭和 34 年 3 月卒 (館林市 旧郷谷村当郷出身) 東京都府中市在住
仕 事 元富士銀行 (みずほ銀行) 本店
趣 味 絵画の制作および観賞・観劇・ストレッチなど
かつて色々体験した病気や事故・怪我から、最近はやっと縁遠くなりました。
中二を筆頭に年長の双子の孫たち五人から、折に触れてはパワーをもら
っています。絵を描き舞台や映画を観、またコンサートや落語を聴いたり
と、現役時代からの趣味を深めながら、気ままに人生を元気で楽しんでます。

他人を思いやる心を持とう



会長 大隈 清道

(昭和 29 年卒)

今期も会報発刊の運びとなりましたが、会員の皆様お元気にお過ごしでしょうか。

東日本の巨大災害、余りの規模に復興の進捗も遅々とする中、被災地では地道な努力が辛抱強く、社会秩序の乱れもなく続けられています。この被災地の冷静さには世界各地から賞賛が寄せられてきています。日本人が当たり前と感知ることが、良きにつけ悪きにつけ、世界の大半で当たり前とは受け止められない場合が多い。史上前例を見ない超広域の激災の後、復興も思うに任せぬ焦燥の中で社会秩序を守っている日本人の姿が、大災害の後暴動や略奪が起こって当たり前という常識の世界で驚嘆と賞賛の的となるのは頷けることです。

一方、日本人の間ではこの被災地の動静、当たり前のことのように見過ごされている場合が多いようです。しかし、そういう見過ごしは同胞の態度として正しいものとは言えないのでは？

私たちは仲間として被災地の人達の冷静な動きに大いに賛辞を送り、そこに誇りを感じてもらおうよう働きかけることが必要でしょう。なかなか成果の上がない過酷な復興努力に堪えてゆくうえで、この誇りは大きな力となるはずです。

東京同窓会の活動の重心は若い世代に移行し、財政事情も着々と好転してきました。こんご、会報の内容もますます充実を計っていきたいと考えております。皆様の積極的なご投稿を期待いたします。

第30回 総会報告

去る平成23年11月5日(土)、標記会員総会が皇居北の丸近い都心のホテルグランドパレスにおいて開催されました。

総会は、①議題の審議、②講演会、③懇親会の3部構成で行われました。

議題審議では、出席した会員諸氏のご協力により予定された議案は全て承認可決されました。また、出席会員から本校100周年に向けて今から取り組んでいくべき等、会の活性化についての意見が寄せられました。

講演会は、小林淳一氏(昭和26年卒)を講師に「自分史を作ろう」のテーマで行いました。小林氏は、特定非営利活動法人「日本自費出版ネットワーク」(中山千夏代表理事)認定第2号の自費出版アドバイザー。五月印刷代表取締役として79歳の現在も出版物の編集、印刷業務に現役で活躍中。参加者から、自分史について質問を受け答える形式で、まとめ方等様々な話をさせていただきました。

懇親会では岩瀬弥市本校同窓会長から、館林高校が平成23年に創立90周年を迎え、各種の記念事業を実施し、東京同窓会からも計

画遂行に格段の協力をいただき感謝しているとの報告・謝辞がありました。

1. 参加者 48名

(イ) 来賓 8名 高橋俊雄館林高校教頭、岩瀬弥市同窓会長、同窓会各支部長、他校同窓会関係者

(ロ) 会員 40名 会員は、新たに若い年代の方の参加が見られました。

2. 事業報告、会計報告並びに決算は総会案内の通り、予算・事業は下表の通り。

3. 役員改選(平成24~25年度)

会 長 大隈清道(29年卒)

副会長 内田信也(30年卒)、

〃 会員対策担当：鈴木昇(35年卒)、大山稔(36年卒)、山岸正(36年卒)、藤井基且(37年卒)、渡辺智三(40年卒)、奥澤康文(45年卒)、中野栄一(54年卒)、深町司(61年卒)、大輪浩幸(H7年卒)

〃 財務担当：相澤建志(36年卒)

〃 会計担当：河村 博(36年卒) 小林功一(54年卒)

〃 書記担当：浜田邦夫(39年卒) 篠崎陸男(40年卒)

〃 名簿管理担当：横山英和(40年卒)

〃 事務局担当：谷田部和之(35年卒)

監 査： 葭葉昌司(27年卒)

荻野秀文(28年卒)

平成24年度(第31期)予算書

収入の部

項 目	金 額
前期繰越金	446,434
年会費収入	450,000
總會費収入	240,000
懇親会収入	240,000
寄付金収入	200,000
広告料収入	30,000
雑収入	53,566
合 計	1,660,000

支出の部

項 目	金 額
總會運営費	320,000
懇親会運営費	240,000
印刷代	250,000
通信費	300,000
交流費	150,000
雑 費	100,000
次期繰越金	300,000
合 計	1,660,000

平成24年度(第31期)事業計画

年 月 日	事 業
H23.10.22	本校90周年記念式典・祝賀会
10.28	高崎高校東京同窓会総会交流
11.05	第30回定時総会
11.12	本校同窓会総会
11.21	第31回懇親ゴルフ会
12月	役員会
H24.01	上毛倶楽部総会交流
2月	役員会
3月	第26号会報発行
4.07	理事会・観桜懇親会
5.09	本校同窓会ゴルフ会
6月	役員会
8月	理事会・納涼懇親会
9月	役員会

自己の再発見、見直しへ 自分史—その書き方



この世に生を受けた貴重な人生体験をまず自分のために、そして大切な人や子孫のために、かけがえのない人生記録を自ら書き残さなくては、自分のこの世における存在意義が永遠に失われてしまいます。世の中も人生も、いつでも「まだ」は“もう”なりです。自分史を書きませんか？

1、「自分史」を書きましょう！

一般に「自分史」というと、どのような受け止め方をされるのでしょうか。まず、思い浮かぶのは「自叙伝」とか「偉人伝」という言葉に代表される一部の立身出世した方や権力者の伝記物ではないでしょうか。つまり、庶民には関係ないと思い込んでいる方が多い節があります。

しかし、身分制度があった時代や超国家主義の下、言論の自由がなかった時代はともかくとして、戦後の日本は憲法にて人はすべて法の下に平等であり、明確に言論の自由が保障されています。誰に憚ることなく庶民は庶民の一人として自由に「自分史」を書くことができます。「偉人伝」ではなく「凡人伝」として書き残すことがこの世に生を受けたものの存在意義を示す使命であり、肝要なことなのではないでしょうか。

このような考え方を一般に広めるきっかけとなったのは40年ほど前に橋本義夫という方が、「ふだん記運動」という民衆運動をガリ版刷りで実践したことに始まるといわれております。

「文章は一部の特権階級や文章職人のものではなく、万人のものであるべきだ」という問題意識の下に、「庶民が文章を書くことに最大の意義があるのであって、文章は下手でもいい、書く

ことが好きになりなさい。名文とか美文を手本にしなくてもいい。とにかく、稚拙でも、生活の匂いのある文章が尊いのだ」という運動を東京は八王子を基点として全国展開したそうです。

そうした背景には、歴史学者色川大吉先生が「朝日新聞」紙上にて、この「ふだん記運動」を紹介したことによる影響もあります。そして色川大吉先生が「ある昭和史—自分史の試み」（1975年、中央公論社）を出版され、「自分史」という言葉に市民権が与えられるようになった歴史的な事実があります。

現在では、「自分史」に関する文献を書店や図書館で容易にみるができますし、ネットで検索してみると、Amazonで2,135件、Googleで2,070,000件、YAHOOで6,720,000件もヒットしている日がありました。「自分史」がいかに一般化しているかという象徴だと思えます。

「自分史」は人生の終わりに書くものとは決まっておりません。人生は親の世話になっていた「第一の人生」、自分で切り開いてきた現役時代が「第二の人生」、そしてその後は「第三の人生」といわれていますが、「自分史」は人生の有終の美を飾るために書くものと決め付ける必要はありません。年代や貴重な人生体験の節目ごとに、それまでの人生を振り返ると共に、その時現在の自らの志向を確認・整理してみることが極めて有意義なことと思われれます。

人は皆その年令にかかわらず、その時々ごとに精一杯の努力を重ねていることと思えます。しかし、30歳、40歳、50歳、60歳それぞれの時点で最高の人生を送っていると思っていることが、その記録を残しておく10年後にはいさ

さかの反省の本音が出てこないとも限りません。つまり、人生の節目ごとに「自分史」を書く意識があり、その可能性を実践できれば、その後の人生にどれほどの効果があるか計り知れないものがあります。

伝統ある群馬県立館林高等学校出身者である皆さんであれば、どなたでも「自分史」が書けないなんて方はいない筈です。少なくともその程度の教養はお持ちの筈です。しかし「自分史」を書く方が極めて少ないという現実もあります。そこで、共同執筆の実例の一つをご紹介します。

昭和26年3月卒業生の同窓会の記録です。卒業後学級毎の同級会から昭和58年(1983)学年同窓会開催に一本化して、昨年迄に20回実施しておりますが、平成11年(1999)会場を東京で実施した際、同級生の文集を作ろうという気運が盛り上がり「老春に咲く花」(A5判・164頁)という同級生の記念文集を発行しました。これが契機となり、更に内容を充実させたその続編として平成17年(2005)には「続・老春に咲く花」(A5判・442頁)発行ということになりました。これらはいずれも「自分史」の共同執筆による集大成です。

つまり、個人として「自分史」を出版するのは難しいが、皆で助け合いながら、それぞれの人生への思いを一致団結して書き連ねることは出来るという一つの実例です。特に館林高校90年の歴史の中で、一つの学年で同窓誌を出版したのはこの例が唯一です。今後この成果を参考として他学年でも更に内容の充実したものが生まれることを期待しております。更に館林高校「自分史」の共同執筆の参考例としては、平成18年(2006)に「館林高校東京同窓会二十五年誌」(A5判・534頁)の発行もあります。是非参考にして下さい。

2、「自分史」は誰にも書けます！

「自分史」を書こうとする時は、余り大上段に構えない方が良いでしょう。本当の「自分史」は自己宣伝の場ではありません。世界中で誰よりも知り尽くしている筈の自分自身を書くものです。相田みつを氏は「うしろ姿は自分じゃ見えぬ、見えぬ姿に人間が出る」と言っております

すが、それでも周りの人には分からない、本人しか知らないことをその人なりの書き方で表現して良いのです。有名人の自叙伝など気にする必要は毛頭ありません。もっと気楽な気持ちで自分のありのままを振り返り、分析してみるような書き方でいいと思います。

日頃書きなれていない方ほど作家などの文章の見事さに惑わされがちですが、庶民が書く「自分史」は世の中の大勢の人々に読んで頂くものではありません。世界で一人しかいない自分自身の来し方を記録に残すものです。自分なりに精一杯生きてきたその足跡を記録し、自分のその後の人生に役立てると共に、自分にとって大切な人々に伝えるために書くものです。

人によっては、自己表現というものに殆ど縁がない生涯もあります。それは表現する内容を持たないからではなく、そういう意識や習慣を持たないためです。普通の人の記録は、まず、そういう意識を持つことが大切で、少しずつそれを記録し残すという習慣を身につけていかないと、なかなか残らない、残せないものだ、というところから再確認してみる必要があります。

人は誰でも、思ったり考えたりしながら日常生活を送っています。一見ボーっとして過ごしているように見える人でも必ず何かを考え何かを思っているものです。でも、それを文章で表現して残さなければ、周囲の誰にも伝わることなく、時の流れと共に雲散霧消してしまうものです。

「自分史」を書くという作業は、いわば自分自身を再発見し、見直しをすることでもあります。したがって理想をいえば、「自分史」には自分の記憶の中から自然に引き出せるものと意識的に再発見し見直しをするものの両方を書いておきたいのです。

「自分史」はいわゆる伝記物ではなく、自叙伝や偉人伝ではありません。したがって、先祖の話から両親の話、自分の出生の物語や幼年期、少年期、学生時代から社会人へと年代順に細かく書く必要はありません。「自分史」は自分の人生を色々と振り返り、誰にもある人生の山あり谷ありの色々な思い出の中から、これは書き残して置きたいと思うことをいくつも思い出して



書き綴るといいのです。

最初は箇条書きで結構です。誰にも思い出は沢山あります。あらためて古いアルバムや日記・手紙などを眺めてみると色々な思い出が次から次へと浮かんでくることと思います。それらの一つひとつを先ず簡単にメモして見ることで。

誰にもある人生の山（受験・恋愛・就職・結婚・趣味・旅行・栄転・独立・家を持つ等）や人生の谷（失敗・挫折・事故・大病・別れ等）の中から思い出深いものを列挙してみること、そしてそれぞれの思い出や出来事などがあった時の時代背景や世の中の動きを時代年表と対照して関連付けてみると、当時は全く気がつかなかったことが浮かび上がってきます。更にそれらのメモの中から主なものを取り上げ、改めて当時の記憶や回想を辿ってみると、時の経過と共にその渦中にあった当時とは我ながら異なった判断や反省が垣間見えてくるものです。人は一人では生きていけないものです。直接間接自分との関わりのある他人との共存共栄の中に、自分の存在があるものです。従って自分の体験して来た過去は世の中の動きと共に存在しているもので、自分史年表は市販されている時代年表を参考に作り上げる必要があります。

このようにして自分史年表を大まかにまとめてみると、その中の幾つもの項目の中に自分の人生の転換期や山と谷の流れが交錯するその瞬間々に自分はあの時何にこだわり、何に囚われていたのかを分析してみたいくなります。

こうして自分の人生を振り返り、ぜひ書き残しておきたいと思う項目から書き始めることにします。最初は「自分史」の部分史を書き始めるような感覚で書きたい項目の順序は特に意識しなくて結構です。箇条書きの内容を時代背景と共に良く思い出し、集めた関連資料を見なが

ら物語の内容を充実させてゆくのです。

「自分史」は自分が生きてきた経験と歴史です。つまり、個人の年譜と世の中の年表を重ねることによって、その歴史の流れが具体的になります。それは自分の内に十分刻まれていると同時に、自分とかかわりあった人々との共存の歴史でもあります。「自分史」は自分の正確な再認識のために存在するもので、自分と社会との接点にあるかかわりを記述しないとけません。

自分が過去に体験し、見聞した事実を自分なりの文章表現でありのままに書き続けることで、自分の過ぎ去りし姿がそのまま記録として残ることになります。その具体的な内容が真実自分の過去そのままであったことを認識できる時、人は大きな感動に浸ることができます。決して自分を偉く見せようとか、美しく飾ろうとしてはいけません。背伸びして書かれた文章は読む人を辟易させますし、その前に書いた本人が苦しくなって、書き通すことが困難になってしまいます。

一般に、自分にとって嫌だったこと、ぞっとするような恥ずかしい思い出は伏せたくなるものです。勿論、そうしたマイナス面を必要以上に赤裸々に書くことはナンセンスです。でも、そうだからといって自慢話の連続も頂けません。むしろ、過去にどんな失敗をし、挫折したかの真実の体験談を書き、その失敗や挫折からどう立ち直ったかを書く方が読む人にとっても極めて参考になるものです。

人は誰でも自らの過去を振り返ってみて、すべて順風満帆だったということはないのが自然です。「他人の不幸は蜜の味」という例えもありますが、人生において思いがけず難局と出会い、その打開のため如何に悪戦苦闘したかの自らの真の姿を表現することによって、読む人に感動を与え、自らにもこれからの人生に何らかの寄与があるものです。

また、あからさまに失敗談とか自慢話とはいえないまでも、青春時代の思い出や自らの今迄の業績の内容を他人が読んで胸焼けするような感情過多、自分本位の思い出に埋没してしまっているような記述の連続であると、やはり抵抗があります。本来はその時の自分をいっぺん他

人の目で見直してみるとという反省的な心構えを全く持たず、自分の感情に溺れたまま書いてしまうようなことではいけません。自分のことは誰でもよく承知している積りですが、他人のことは案外分かりにくいものです。自分だけが分かって、人には分かりにくい自己中心的な表現には意外と落とし穴があるものです。小説のような虚構の表現ではなくても、書いたものの真実を理解してもらうためにはかなりの神経を使った詳細な具体的な記述が必要になります。表現の具体性が問われるところです。

「自分史」は自分にとって世界中にたった一つしかないものです。未来永劫、真の自分のことは自分一人にしか書けないものです。この地球上に存在している何十億という人間は、一人ひとり皆違う未刊の人生記録を内蔵しております。その一人ひとは誰でもかけがえのない貴重な人生の価値を持っているわけです。自分の人生の存在意義は何物にも変え難いものです。「自分史」を書き残すことによるのみ、自分の思う真実が周りの人に理解されるための第一歩になるのではないかと考えられます。

一通り書き終えた「自分史」は、あらためて全体を通して読み直してみることが大切です。出来れば音読してみると文章のリズムなども含めて色々な点に気付くことができます。留意すると良いことを列挙してみると次のようなことが考えられます。

①自己顕示欲旺盛な自慢史になっていないか、②必要以上に過去の出来事を美化し、自己陶酔的になっていないか、③苦労話の押し売りになっていないか、④文献や資料の紹介・引用が多すぎて本来の自己紹介ではなく、借り物の内容になっていないか、⑤謙遜の姿勢が強すぎて愚痴の塊ようになっていないか、⑥自己弁護に

走りすぎて、他人を必要以上に誹謗中傷などしていないか、⑦真実より虚構の塊で私小説まがいになっていないか、⑧固有名詞や数字が間違っていないか、⑨差別用語を使っていないか、⑩「です・ます調」と「だ・である調」を混用していないか、⑪「てにをは」に過ちがないか、⑫表記と表現の統一に注意しているか、⑬句読点が適度にあるか、⑭改行が適当か否か、⑮誤字・脱字がないか、⑯同音・同訓異義語を正しく使い分けているか、⑰故事・ことわざ・熟語が正しいか、等々についてよく検討してみることです。

3、「自分史」の完成

「自分史」の内容が完成すると、どのような形でまとめ、残すかが問題になります。一般的には本にするということでしょうが、コンピュータの普及とともに時代は大きく変わってきています。「自分史」は有名作家が執筆したものを出版し、何千、何万もの人に読んでもらって自分は有名になりたいとか、お金を儲けたい、というものはその動機が全く異なるものです。でも、せっかく苦労して書き上げたものだから、かっこいい本に仕上げたいと思うのも自然の人情です。しかし、それよりも、まず内容が問題です。

内容が「その人生を謙虚に顧みた」もので、ぜひ本にしたいという時、人様に読んでもらうものだから、余り見苦しくないものを作ろうというのが自然の心理ではあります。でも、「自分史」を書いた本人が、その内容を誰に伝えたいか、誰に読んでもらいたいのか、という対象が一番大事です。控えめにほんの身内だけでよいのか、多少は友達にも伝えたいのか、それとも出来れば多くの人々に読んでもらって自らの地位

年会費納入のお願い

平成24年度(平成23年10月～平成24年9月)の年会費3,000円未納の方は、①氏名、②卒業年
③住所・TEL、を明記していただき下記口座にご送金お願い致します。

・郵便振替 加入者名 館高東京同窓会
口座記号番号 00160-8-773981

や価値を高めたいのか、ということでその作り方が大きく変わります。

最も簡単な方法としては、手書きの文書やパソコンでプリントしたものをホッチキスで止める、ということでも文章で表現した大切な「自分史」の内容は十分伝えることができます。「自分史」は、体裁は二の次で、何よりも内容が大切です。

パソコンが普及した現在では、文章のみならず写真や音声も含めたそのデータをUSBやCD・DVDに記録することでも大丈夫です。更には、その内容をすべてプリントし、市販されている簡易製本キットを活用すれば、誰でも一見立派な表紙がついた本を作ることができます。また、iPadに代表されるような端末機器類の活用で、電子書籍という分野もあります。

しかし、せっかく精魂込めて書き上げた「自分史」であるから、多少の予算をかけてもぜひ専門家による自費出版方式でそれなりの体裁の整ったものにしたいということであれば、並製本でも本格上製本でも、思いのままのものが出来る時代となりました。印刷方式も多種多様で、オンデマンド印刷機を利用すると少部数でもカラー印刷が比較的廉価で出来ます。

正式に本作りに取り組むとなると、1冊でも2冊でも出来ればいいという個人的な手作り感覚の考え方と異なり、原稿の内容と共に正式な本としてのレイアウトやデザインに対する配慮が必要となります。

一般に本にする工程には、原稿→編集→校正→印刷→製本という流れがあります。特に本の形を決める編集の部門が大切で、本の体裁を整える基本的な色々な知識・理解が必要です。

デザインの分野では、①本のタイトルを決める、②本の大きさ(版型)を決める、③並製本(表紙カバー・帯)、上製本、箱付等の製本の種類・形態を決める、④表紙のデザインを決める、⑤紙質を決める等。

レイアウトの分野では、①目次を決める、②章建ての構成を決め、本文大中小見出しのレイアウトを考える、③縦組みか横組みか、④本文の文字の大きさ、行数、1行の文字数を決める、⑤写真やイラスト、図表などのレイアウトを考える、⑥前付、奥付、索引その他本の体裁上の細目を決める、等かなり専門的な知識を必要とします。この分野の配慮如何によって本としての仕上がりの質に大いに影響します。

「自分史」を自費出版の形でお作りになる方は、専門的な知識をお持ちの方は別として、一般的には、まず市販の本の体裁を吟味して、業者に印刷を依頼する最初の段階で、自分の本の仕上がり体裁を予めきちんと考えておくことです。出来れば自分のイメージしている市販の本の現物を見せながら、予算との兼ね合いから、その基本的な内容を決めることが大切です。

今の世の中は情報過多の時代とも言われています。無手勝流は避けて街に溢れている情報源を大いに活用することが肝要です。

伝統ある群馬県立館林高等学校出身者の皆さんの立派な「自分史」を期待して筆を擱きます。

こばやし じゅんいち 79歳。館林市旧館林町代官町出身。東京都江東区在住。中央大学卒後公務員生活を経て(有)五月印刷を設立、代表取締役。NPO法人日本自費出版ネットワーク公認「自費出版アドバイザー」。「館林高校東京同窓会二十五年誌」刊行に際して多大な貢献を果たす。

観桜懇親会のお知らせ

館高東京同窓会は、会員諸氏との懇親・交流を目的に下記次第による観桜懇親会を開催します。春のひと時、ぜひ先輩、同期生、後輩入り混じっての懇親会にお気軽にご参加下さい。

日時 平成24年4月7日(土) 午前11時～

会場 ホテル グランドパレス (1F レストラン カルア) 千代田区飯田橋1-1-1 TEL 03-3264-2401

会費 4,000円(当日受付)

申込先 館高東京同窓会事務局 〒343-0021 越谷市大林74-5 谷田部 和之

TEL 048-974-6012

FAX 048-974-6680

奥山 健二(37年卒)

館林市旧館林町目車出身。広島県福山市在住。2011年4月、福山市立大学設立に伴い、明星大学理工学部教授から転籍。現在は福山市立大学都市経営学部教授、副学長・学部長。アーバンデザイン(都市設計)が専門で、最近の研究テーマは、パリの「シャンゼリゼ大通り」や札幌の「大通り公園」など、大通りの都市における機能的役割や都市空間のシンボリック役割を明らかにする「都市における大通り空間に関する調査研究」。

河村 博(51年卒)

館林市旧館林町大名小路出身。東京都世田谷区在住。特定社会保険労務士。東京同窓会副会長。平成23年3月よりホテルグランドパレス取締役料飲部長。

小暮 勝茂(真望)(41年卒)

館林市旧館林町加法師出身。埼玉県東松山市在住。シルクスクリーン版画家。日本版画会常任委員・事務局長・審査委員、明治大学理工学部外部講師、「尾瀬の郷」親善大使。1984年の日本版画会展新人賞、文部科学大臣賞受賞以

来、オーストラリア、イタリア、ノルウェーなど、国内外で数々の賞を受賞、精力的な創作活動を続け、全国で毎年個展を開催している。2012年は2月22日～29日東京・日本橋丸善書店、3月6日～12日千葉県柏市・柏そごうデパート、3月19日～24日東京・銀座文芸春秋画廊、など。

小暮 剛一(39年卒)

館林市旧三野谷村出身。東京都板橋区在住。元芝浦工業大学理事長。中国・上海市にある「上海日本人学校」運営委員会委員長として活躍中です。

篠木 昭夫(27年卒)

邑楽郡明和町旧梅島村出身。東京都文京区在住。仕事と趣味に追われて、元気に多忙な毎日を過ごしています。

高澤 誠(29年卒)

邑楽郡邑楽町旧中野村出身。神奈川県横浜市在住。アマチュア無線技士養成講座の講師を元気に務めています。

武政 和夫(35年卒)

板倉町旧海老瀬村出身。埼玉県所

同窓会長

前山 秀樹氏に

群馬県立館林高等学校同窓会は、平成23年11月12日の総会において、第6代会長に前山秀樹(37年卒、館林市当郷町在住、善長寺住職)氏を選出した。これに伴い岩瀬弥市前会長は名誉会長に就任。

沢市在住。元人事院事務総長。平成23年秋の叙勲において、公共的な業務に長年にわたり従事して功績を上げたとして、「瑞宝重光章」を授与された。おめでとうございます。

三関 春雄(56年卒)

館林市千代田町出身。神奈川県横浜市在住。東京トヨペット(株)亀戸店店長として頑張っています。

横山 英和(40年卒)

邑楽郡邑楽町旧長柄村篠塚出身。埼玉県川口市在住。東京同窓会副会長。電源開発(株)を退職後、週末は篠塚の家の管理に向き野菜作りに励み、64歳にして書道の手習いを始めました。

ゴルフ部会

ゴルフ部会(中村茂八郎部会長)は、第31回親睦コンペを15名の参加を得て平成23年11月21日千葉県野田市・紫カントリークラブあやめ36(EASTコース)を会場に、新ペリアルールを適用して開催した。

会場のEASTコースは各ホールとも歴史を物語る太い松の木が両サイドに高く伸びフェアウェイの幅を狭く感じさせ、グリーン周りを砲台にした林間コースで難しいコースだった。

初参加の神谷武一郎(昭和27年卒)、吉田善市(昭和30年卒)両氏を交えた1年振りのコンペは、各人日頃あまたのコースで鍛えた腕前を披露すべく元気い

っぱいにスタート。各組とも軽口を叩きながらのラウンドは、成績よりも親睦を深めることに注力したこともあり、ベストスコア92打、100打以内でラウンドした人6名と、近年になく大叩きの人が多いコンペとなった。

優勝は、土曜日は雨が降らない

限りゴルフ場に出てプレイしているという車崎光知(昭和27年卒)さん、準優勝は中村貞夫(昭和28年卒)さん、第3位は相澤建志(昭和36年卒)さんとなった。19番ホールは苦戦の言訳で盛上がる楽しいひと時を過ごし、再会を約して散会した。



館高東京同窓会が日本を変える！

館高創立 100 周年への提言



同窓会は眠れる都市鉦山である

昭和 45 年卒 奥澤 康文

◇40 年ぶりに同窓会初参加◇

大それた掲題であり誠に僭越ですが、新参者の独り言として、しばしご容赦戴きます。

まるで、木枯らし紋次郎のように故郷を離れ既に幾星霜、同窓会とは全く無関係の世界にいました。振り返れば人生の初秋を迎え、季節の移ろいに心を揺さぶられる昨今です。私は現在、江東区深川の木材問屋の役員（資金繰り、事業計画、業務改善等）をやっております。

今迄参加しなかった理由は、所謂、成功者の集いの霧囲気を想像し、私の様な落ちこぼれ者では到底無理ではないか、と永らく躊躇していた為です。世間でも同窓会活動への参加者は非常に少ない。しかし、60 歳を目前に考えが変わり、友人知人もなくこのまま寂しく終わりたいはないと思うに至った。そこに、3 月 11 日の東日本大震災を契機に、人との絆や人生を有効活用しようとの思いが強くなり、思い切って同窓会へ飛び込んだ。

私の存在は雨の一滴にすぎないが、参加者の知恵や経験を上手くコーディネートできれば小川になる。そして、やがては大河となり得る夢を抱き微力ながら努力して行きたい。



2011/11/22「エコ展（東京国際ホール）へ出展」に静岡から応援に来てくれた大学同期の南條君（右）と

◇高校から大学時代◇

寒村の兼業農家の長男として、三野谷村に誕生（昭和 27 年）。家が貧しく、野菜作りや農作業の手伝いは当たり前だった。勉強もスポーツも得意でもない私は、目立たない普通の生徒だった。

昭和 42 年に三野谷中学校を卒業。卒業時の高校進学率が初めて 50% を超えたことを P T A 会長が誇らしげに話していたことを今尚鮮明に覚えている。高校時代は物理部で気象・天文観測をした。

私立は経済的に不可能な為、浪人の後、新潟大学農学部へ入学した。数学の奥澤義一先生の影響で数学が好きになり、先生の母校である東京教育大学（現筑波大学）を希望していたが、入試直前に断念した。授業料が年 1 万円、生活費は月 2 万円で大いに親孝行ができた。在学中に 1 年間休学し、西ドイツの林業家（名門の男爵家）に研修留学した。

◇サラリーマン時代◇

大学卒業後は、上場の製紙会社へ入社。バブル絶頂期の日本を離れ、32 歳から 8 年間米国カリフォルニア州に駐在。永住を希望したが、バブルがはじけ転落人生が始まった。40 代後半に転職し現在に至っている。

現在の勤務先（株）コバリンの創立者は、故小林準一郎翁^{*}で、戦前の王子製紙の副社長であり日本の製紙や林業界を代表する重鎮であった。意外なことに、群馬県大間々町の出身で、明治以降の県内経済人を代表する 100 人の一人である。

（*：約 110 年前、旧制前橋中学から旧制六高を経て東京帝国大学へ進学。社長になる直前、敗戦により公職追放された。社史の残が若干あり、希望者はどうぞ（無料）！）

◇新潟大学の東京同窓会への初参加◇

一昨年より初参加。昨年6月に幹事となる。30数年ぶりの再会に仰天し、まるで浦島太郎の世界だった。2011年10月、農学部が幹事学部となり、全学部同窓会を主催し100人参加。私が当時の同級生13人(初参加)を、企業の求人の要領でグイと引き寄せた。もち論、大勢に電話したが、大半は興味や関心が薄く期待外れで、中には迷惑だから電話しないでくれと言う人も少数だが実在した。

同窓会当日は、実に懐かしい感動的な思い出となった。北は岩手県、西は岡山県、更に米国在住の友人の参加も望外の喜びだった。農学部同窓会長の村上氏(住友林業(株)の子会社の社長)の新入社員の時の上司が、館高OBで正田良三氏(私の3年先輩)と聞き世間の狭さに驚いた。而して、人間関係は決して疎かにしてはいけないと感じた。

◇館高東京同窓会役員会へ初参加◇

大学同窓会には旧知がいた。しかし、高校同窓会には友人、知人はゼロだった。当然、同窓会のかげもち負担が倍増する為、参加を躊躇した。でも、好奇心で一度は覗いて見たかった。どこまで続けられるかわからないが、行き着くところまでやることにした。

◇館高創立100周年への思いつき10ヶ条◇ (私案)

- ① HPの作成：ブログ、Facebook、メルマガ等を積極利用しPRする。
- ② 多彩な人脈の構築：同窓会の異業種交流等の具体的なメリットを実証する。
- ③ 就職・転職相談：私はキャリアカウンセラー(日本能率協会)の経験を生かしたい。
- ④ 広報活動を継続：現在、木材業界紙(東京木材問屋協同組合)に、『材木屋とエコ環境省エネ』のテーマで、館高同窓会報告を含め連載し、徐々に反響が拡大中。
- ⑤ 参加者100人を目標：どこの同窓会でも参加者が減少中。活性化の中期計画策定。
- ⑥ 趣味の会の立ち上げや参加。門前仲町B級グルメ紀行、カラオケ、ダンス等。
- ⑦ 「深川モダン館」(区立)を利用し、震災復興や自然エネルギーの勉強会を開催する。
- ⑧ 東京同窓会として、100年記念誌発行の準備



2011/8/6(土)館高東京同窓会(初参加)。夏の納涼会。良い感じだった♪(於：ホテル グランドパレス)



役員会後の忘年会(会費3000円)ビールで乾杯。中央は建築家の大隈会長。左は鈴木昇、右は山岸正両副会長。

をする。

- ⑨ 同窓会用の名刺(両面)作成し、趣味、特技、社会活動等を知ってもらう。
- ⑩ 先輩の優れた経験や人脈を受け継ぎ、また、次世代へ継承する。

☆

最後に、日刊工業新聞に会社のエコ新商品「もみがらエコボード」を載せて戴いた。昭和35年卒谷田部和之副会長(事務局担当)のお陰である。また、私は元旦に個人でブログを立ち上げた。「館林高校東京」で検索できます。これが都市鉱山(知恵、経験の活用)の開発の一例であると思います。

おくざわ やすふみ

昭和45年3月卒。館林市旧三野谷村出身。埼玉県さいたま市大宮区在住。東京同窓会副会長。館高時代の部活は物理部に所属。新潟大学農学部卒業後、製紙会社勤務を経て、株式会社コバリン入社。現在は同社取締役総務部長兼経理部長。



地ビールで乾杯！

昭和 22 年卒 田口 正明

昨秋、館林で竹馬の友の会合があった。戦時中の疎開組とのナツメロ懇親会だ。内輪の会合だから、堅苦しいあいさつは後回しにして、すぐ開宴となりカンパイとなった。カンパイは、涼味満喫の地ビール。聞けば、清酒蔵元の龍神酒造の地ビールだそうだ。龍神ときいて親近感がわいた。

龍神酒造は、竹馬の友の毛塚英之くんが生まれ育った家だ。酒樽にかくれ、日が暮れるまでよく遊んだものだ。毛塚くんの母親が心配し「これをもって、早くお帰り」と、酒粕をいただいて家路についた。もう 80 年近い昔むかしのことである。

世間は広いようで狭い。戦時中の東京からの疎開組の中には教師もおられた。歴史担当の横田先生は、その一例である。疎開前は中野に住まいがあった。B29 の焼夷弾攻撃からまぬかれ、東京に帰り教育を通じ復興に従事された。このことは、趣味の能楽を通じて知った。

私の伯父が千駄ヶ谷にいた。戦災をまぬかれたお屋敷で、謡曲、言い換えれば謡（うたい）を教えていた。謡本など無い時代だから、回し読みして稽古に励んだものだ。そのうち稽古仲間の奥さまが横田先生の奥さまであることが判明、戦時中の苦勞話しに花が咲いた。

龍神で思いだしたことがある。それは、謡曲の「龍神」だ。舞台は琵琶湖。旅人は近江の国の琵琶湖に浮かぶ竹生島へやってきた。竹生島

は女人禁制の島だ。それもアベックで夫人同伴でやってきた。このため社殿は鳴動し、湖水が波立った。そのうえ龍神も現れた。

旅人は女人禁制を破った償いに金銀珠玉をささげ、天女の舞を舞った。機嫌を直した龍神は、湖中の竜宮へご帰還となった。

館林は、ご高承のとおり、城下町。徳川五代将軍の綱吉が、将軍になる前に城主をつとめた。能楽や儒学をこよなく愛した将軍である。このため綱吉に仕えた武士たちは、教養として能楽の稽古にも励んだ。このことは町民にも伝わり、能楽が普及したものと思う。

龍神酒造のネーミングは、おそらく「竹生島」の稽古中にひらめき、こんにちの龍神酒造へとつながったものと、私は推測している。いずれ毛塚英之くんにお会いする機会もあるかと思う。その時は、旧交を温めかたがた、龍神のネーミングについてお尋ねしようかと思っている。カタカナ文字が目立つ現代社会では、貴重なネーミングだ。

ところで、今、酒粕はしずかなブームである。酒粕は食べるだけではなく、健康食品としても再評価されている。さらに、酒粕風呂や酒粕パックなど、肌に用いることで潤いが得られる。酒粕美人の誕生である。

むかし「上州はかかあ天下」と言われた時代があった。これは女性が父ちゃんを尻にしていって威張り散らしている、ことではない。「酒粕美人」が多いということだ。

酒粕には発酵によって、アミノ酸やビタミンなどの成分がたっぷり含まれている。このためお肌にもよい。まさに値千金。上州の空っ風にあたり酒粕風呂で八木節を歌うのも乙なものだ。

フレーフレー酒粕！ フレーフレー龍神！

たぐち まさあき

80 歳。旧館林町足利町出身。東京都国立市在住。旧制館林中学第 4 学年終了。中央大学法学部卒。元芝浦製糖会社勤務。(社)糖業協会会員。趣味・能楽(親世流)。



プロの人達を従えて謡曲の発表会(前列左)

<p>テクニカルコーディネーター</p> <p>建築家</p> <p>大隈 清道 (29年卒)</p> <p>〒273-0022 船橋市海神西1-1193-1-1006 電話 0474-33-6790</p>	<p>館林高等学校東京同窓会名誉会長 群馬県人会連合会会長代行・副会長 上毛倶楽部 副理事長</p> <p>鈴木 敏男 (23年卒)</p> <p>連絡先 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-55-7 ナナヨウビル 七陽商事株式会社 電話 03-3663-7740</p>
<p>財団法人 神津牧場</p> <p>岩崎 充利 (29年卒)</p> <p>自宅 〒177-0051 東京都練馬区関町北4-21-10 電話 03-3594-2808</p>	<p>葭葉法律事務所</p> <p>弁護士 葭葉 昌司 (27年卒)</p> <p>〒106-0031 東京都港区西麻布3-21-20 霞町コーポ903号室 電話 03-6447-0446 FAX 03-3403-0675</p>
<p>株式会社 リアルエスピースタジオ</p> <p>代表取締役 宇治川 譲 (29年卒)</p> <p>〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨1-19-18ウメゾンビル 電話 03-5907-5812(代) FAX 03-5907-5814 http://www.real-sp.co.jp</p>	<p>学校法人 関西外国語大学 関西外国語大学・大学院 関西外国語大学短期大学部</p> <p>教授 内田 信也 (30年卒)</p> <p>自宅 〒177-0044 東京都練馬区上石神井1-3-16 電話 03-3594-1173</p>
<p>相澤・藤井法律事務所</p> <p>弁護士 相澤 建志 (36年卒)</p> <p>〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22 電話 03-3574-0880(代) FAX 03-3572-0028 E-mail : aizawa-l-o@nifty.com</p>	<p>株式会社 サービス経済研究所 グローバルアライアンスコンサルタントサービス 日本・ネパール親善協会</p> <p>代表取締役 山岸 正 (36年卒)</p> <p>〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-14-12 本多ビル 電話 03-6912-7221 FAX 03-6912-7223 E-mail : hhe01366@nifty.com</p>
<p>小林公認会計士事務所</p> <p>公認会計士・税理士</p> <p>小林 功一 (54年卒)</p> <p>東京事務所 〒123-0851 東京都足立区梅田8-5-6 電話 03-3880-2187 FAX 03-3880-2138 群馬事務所 群馬県邑楽郡邑楽町中野3013-14 電話・FAX 0276-88-1844</p>	<p>株式会社 キャノン美容院</p> <p>代表取締役 浜田 邦夫 (39年卒)</p> <p>〒171-0031 東京都豊島区目白3-4-11 電話 03-3953-0951</p>

「海洋訓練」に参加

— 館林中学 1 年 それは軍国少年の時代であった —



昭和 23 年卒 松本 仁人

昭和 18 年、太平洋戦争はますます激化し南洋太平洋における日本軍は、一進一退が続き敗色の兆しを感じられてきた。4 月 18 日、山本連合艦隊司令長官戦死、1 年前には、北海の「アッツ島」守備隊長山崎大佐以下 2,500 人が全滅している。

その頃、同年 8 月下旬、海洋訓練に参加した。場所は榛名山で期間は 1 週間、1 年生 30 名、その中に私の名もあった。

◇出発 訓練 1 日目

榛名山頂には湖がある。カッター訓練等、相当厳しい訓練があると覚悟していた。

出発当日、早朝校庭に集合し、先生指導のもと館林駅に向かった。車中ではあまり会話がないう。これからの 1 週間、訓練の不安と緊張、海軍精神を叩き込まれ、精神棒で尻を叩かれるという、「予科練」に入った先輩の話である。

榛名山付近の駅で下車し、山頂まで登る。前面に雄大な榛名山が聳えている。先生の激励の声が飛んだ。「行くぞ、頑張れ！」全員元気が出てきた。訓練などに負けられるかと山頂目指して出発した。

平坦な道が続く、やがて登り坂になり、階段状になってきた。険しさが続く。先生の気合が入る。しばらく進むと林の合間に榛名富士が展望されてきた。ここまで来れば目的地は近いという。榛名富士の麓を過ぎると平坦な道になり、右手に湖が見えた。大自然の中飄々として広がりを見せている。左手前方に大きな建物が数件見えてきた。暑い中よく頑張ってくれた。旅館風の建物前の広場に到着した。

全員整列し健康状態を確認して、先生が建物内へ入っていった。間もなく海軍軍人教官 2 名が出てきた。「今日はよく来てくれた。現下の情勢—海軍は総力を挙げて戦っている。今日から 1 週間君らと共に戦う。頑張ってくれ」との話を聞いて、心身共に引き締まってきた。

教官の案内で建物の中に入った。既に昼食の準備が出来ていた。食事終了後、2 階の大広間

に案内され、就寝場所が指定された。各人別に寝具が整然と一列に並んで折り畳んである。

さらに教官から 1 週間の訓練予定の説明があった。毎日、起床から就寝まで、すべて先生の指示によって素早く整然と行動するようにと命ぜられた。

午後から広場で身体作りが始まった。海軍体操である。力強く、繰り返し行われた。次に規律訓練、号令のもとに挙手の敬礼、学校では陸軍式であったが、海軍式は若干違う。これも徹底的に指導された。続いて行進の訓練である。団体行動による駆け足、早足等である。

海洋訓練とは、基礎からの指導であった。これは毎日、1 週間続いた。これだけで精神的にも各行動基礎が叩き込まれていく。夕暮れになり 1 日が過ぎようとしている。

次は湖の周辺を駆け足訓練であ。列を崩さず、足並み揃えての同一行動である。時には掛け声を出して走った。

やっと初日の訓練が終り、夕食が楽しみであった。夕食後、明日は“信号”の訓練であると告げられた。就寝前の自由時間は榛名湖周辺を散歩した。建物から明かりが漏れ静かであった。満月の月が榛名富士上空に輝き、湖に浮いて静かに波間に揺れていた。

◇訓練 2 日目

起床の鐘が鳴った。素早く広場に集合し体操が始まる。教官の声が大きく響き、テンポが速くてなかなか上手く付いていけない。「今日も頑張れ」全員「ハイ」と大きな声で返事した。

“信号”とは？興味が湧いてきた。まず無線信号の記号について、イロハの文字記号を覚えることであった。イ「・ー」、ロ「・ー・ー」、イロハ文字を組み合わせて通信文を無線で送受信する。しかし、記号を全部覚えることは短期間では困難な事であった。

2 組に分かれ通信文を作り記号にして、往復練習を繰り返した。

翌日の訓練は“光信号”と告げられた。

◇訓練3日目

“光信号”これは「・ー」信号を光に変えて送信する。光を「パッパッ」と点滅送信する方法である。

単文の通信文から始め、ゆっくりと点滅し送信する。それを読み取る。夕暮れ近く2班に分かれ1班は小高い所に移動して単文信号を点滅した。しかし、一朝一夕には上手くいかない。覚えるのに時間がかかる。これを教官同士で実施して見せた。

内容を説明してくれるが、さっぱり読み取れない。「敵艦出沒」「了解、準備完了」ということであった。光点滅が速い、これを読み取って交信している。教官は凄いと感心の極みであった。

この時、東京の無線学校に転校した同級生の伊藤君のことを思い出した。彼は、同じ事それ以上のことを勉強している！負けてはいられない。単文を作って送信した。各班共同作業である。幾らかできるようになったが、教官の表情は厳しかった。

明日は“手旗信号”であると告げられた。

◇訓練4日目

榛名湖砂浜に木製の大型カッターが一艘置いてあった。訓練で湖に出るのは何時なのかと皆で話し合っていたが、体操の後、手旗信号の訓練が始まった。

これは両腕の動作によってイロハの文字を表現する。

両手に旗を持ち、イは左腕を斜め上に、右腕を斜め下に一瞬停止し、次に右腕を真上にして素早く下に降ろす。同時に左も降ろす。イロハの文字全部を両腕の動作によって表現し通信文を発信する。これはメモどころでなく体で覚えるほかない。難しい。一生懸命に旗を振る。

これも教官同士で実施して見せてくれた。一人は裏山の中腹に行った。二人とも素早い両腕の動きであった。更に驚いたのは二人とも腕を使わず両手先でこれを表現し交信していた。ただ見とれるばかりであった。この日、他校の生徒が多数入所してきた。

◇訓練5日目

手旗の訓練が終日繰り返し行われた。両腕が重くて上がらない。夕食後、明日は榛名富士に登ると告げられた。

◇訓練6日目

日課の訓練と手旗が大分出来る様になってきた。午後から2班に分かれ間をおいて出発した。教官が各班に付いた。随時、教官同士手旗で連絡し合っていた。中間地点で休止、各班、単文の手旗を送信する。相方が読み取ったか？返信している。こちらも真剣である。全員で読み取り成功、少年水兵になった気持であった。

2班とも頂上へ到着した。そこには祠があった。全員〇〇祈願した。下方には榛名湖が大きく広がっている。その前方、宿泊している建物の屋上から手旗で送信しているのが見えた。直ちに教官が返信していたが、私達には全く読み取れず、その速さに驚くばかりであった。

夕食後、先生から明日で訓練は終了であると告げられた。6日間が夢のように過ぎた。期待していた「カッター訓練」は無かった。

◇訓練最終日

起床の鐘が鳴った。全員広場に集合した。最後の海軍体操である。教官の声が何時になく大きく力が入っていた。元気よく汗をかいた。終了後、教官から声が掛かった。「皆な、よく頑張ってくれた、今日でお別れです。これから元気で〇〇のために！サヨナラ！」

あつという間の1週間であった。朝食後、広場に集合した。教官2人が笑顔で見送ってくれた。厳しい中にも優しさがあつた。精神棒など持っていなかった。私達は心から「ありがとう」と叫んでいた。

先生を先頭に宿を後にした。教官が大きく手を振っていた。榛名湖を過ぎ下り坂になったが駅まではまだまだ遠い。先生が叫んだ「館林へ帰ろぞ、頑張れ」。こだまが山あいには響いた。榛名富士が下がる度に小さくなり、やがて視界から消えて行った。

後日、あの2人の教官は、私たちを最後に基地に戻り出撃したと先生から話があつた。手旗を振る凛々しい教官の姿が今でもはっきり臉に焼き付いている。

まつもと ひとし

昭和23年3月卒。旧館林町足利町出身。千葉県流山市在住。元東京消防庁勤務。趣味：囲碁、盆栽、ゴルフ。勲六等単光旭日章を拝受。在職中は、銀座松屋、池袋西武、両デパートの大火災や三河島の常磐線脱線事故の災害等に大小様々な火災・災害に出動活躍した。現在、自治会等の地域防災活動に協力、寄与している。



元気で～すー会員便り



田口 良二 昭和 53 年 3 月卒（館林市新宿町出身）東京都新宿区在住
 仕事 金融庁勤務（総務企画局総務課審判手続室長）
 趣味 ジョキング、日帰り温泉巡り
 財務省、金融庁、証券取引等監視委員会等で仕事をしてきましたが、昨年 7 月から、金融庁で金融商品取引法違反に伴う課徴金納付命令の手續に係る仕事をしております。自宅のすぐ横を神田川が流れており、その兩岸が遊歩道でもあることから、毎週末にはジョキングを楽しんでおります。毎



有輪 六朗 昭和 29 年 3 月卒（邑楽郡明和町出身）東京都世田谷区在住
 仕事 エスアールエス細胞病理研究所 常勤病理医
 東京都立大久保病院、東京都立大塚病院で 33 年間勤務後、現在の研究所に招聘され、現在に至る。
 病院では病理解剖、病理診断に従事し、現在は全国の医療機関からの、胃、大腸の病理検体の診断に従事している。



江原 富男 昭和 31 年 3 月卒（邑楽郡明和町 旧千江田村出身）千葉県八千代市在住
 仕事 元東京東信用金庫（旧協和信用金庫）勤務
 趣味 ゴルフ、カラオケ、旅行、ビデオカメラ、短歌
 今年 1 月 74 歳、いまだ「メガネ要らず、医者要らず」、週一ゴルフを楽しんでいます。また昭和 31 年卒の気の置けない同志と「三一会」を結成し、年数回の旅行を継続中。昨年は熱川へ。



深町 司 昭和 61 年 3 月卒（邑楽郡大泉町出身）神奈川県横浜市在住
 仕事 ソニー生命保険(株)勤務
 趣味 釣り、料理、登山
 大学を出てから 30 歳まで輸入車の BMW（BMW 東京(株)）で営業力を磨き、そこから現在まで今の会社に勤務。既に人生の半分以上を横浜で過ごし、顧客数も千数百名となり、好きな仕事とはいえなかなか休みも取れない現状です。



小暮 堅三 昭和 25 年 3 月卒（邑楽郡千代田町 旧永楽村出身）東京都江戸川区在住
 仕事 医療法人社団小暮医院
 旧制館林中学を経て新制館林高校に移行。順天堂大学医学部を卒業し、現在は東京都江戸川区にて小暮医院を開業中。
 趣味 マジック
 近所の老人ホームを慰問し披露しています。



増尾 哲雄 昭和 36 年 3 月卒（邑楽郡邑楽町出身）東京都多摩市在住
 仕事 曹洞宗 住職
 趣味 オートバイ
 出版社を退社して僧侶に变身。電気・ガス・水道のない山奥の寺で修行し、今では東京と茨城の寺の住職をしています。修行中の坐禅が身について健康です！といたい処ですが、最近では体内のグリスが少々切れ気味。

編集後記

インターネット上に東京同窓会のブログが立ち上がりしました。Google で「館林高校東京」を検索すると、「群馬県立館林高校東京同窓会のブログ」が表示されます。45 年卒奥澤康文副会長（10 ページ参照）が、正月休みを返上して、第 26 号会報で告知できるように立ち上げてくれました。個人のブログですが、パソコン利用の会員の皆さんは、会の活動状況、先輩・同輩・後輩の動静を知るのに便利と思います。今後、会として公式 HP 立ち上げを計画しています。知識ある方のご参加・ご協力を切望します。

昨年に続き、本号は今春卒業する方々にも贈呈します。新たに同窓会員となる方が、多分野で活躍中の先輩諸氏との交流を深めていくのに多少とも役立てば幸いです。

新聞部 OB 会（菊池修会長、41 年卒）が平成 23 年 11 月 20 日、30 余名の OB を集めて発足しました。東京同窓会所属 OB の方々の積極的な参加を希望します。

「会員消息欄」を設けました。皆さんの元気な活動振り、友人・知人の消息など様々な情報をお知らせください。

連絡先 谷田部 和之 FAX 048-974-6680

E メールアドレス kyatabe@tc.at.ne.jp